

はじめに

2003 年はベトナムを含む東南アジア諸国が、力強く発展する中国経済と共存共栄を図り、経済のグローバル化の中で経済発展を遂行した年でした。

ドイモイ政策を開始以来 17 年が経過し、対外開放、全方位外交路線のもとにベトナムは自然災害、近隣諸国の購買力低下、不況など多くの困難、試練を乗り越え、GDP ベースではプラス 7、2%の成長率を達成しました。これにより引き続き政治的経済的安定と国民生活の向上を図ることが出来ました。

又、ベトナムは、世界の約 150 ヶ国・地域と貿易関係を有し、昨年度は、輸出 201.7 億ドル、前年比 19%増、輸入 252.2 億ドル、前年比 30%増、輸出入合計では 453.9 億ドルとなり、26.6%以上前年度を上回りました。

米越通商協定の発効は、大幅関税引き下げが可能となりベトナム産品のアメリカ向け輸出の条件を拡大し、木工品、雑貨、繊維、水産物等の輸出が促進されました。一方ベトナム産品のダンピング問題も時々発生し、調整が行われています。

外国投資の分野では、アジア経済危機を経て、2003 年(1 月から 12 月 20 日まで)新規投資案件 596 件、投資額では、約 15 億 1000 万ドルの許可書が発行されました。日本の直接投資は、投資額では、投資案件数 53 件、投資額 1 億 37 万ドルで前年比若干の減となりましたが、最近、松下グループの進出の動きも伝えられ、活気が見られます。又、既に進出した日系企業の生産拡大、業務拡張の動きも見られます。

日越関係では、2003 年は、アセアン諸国と日本との関係でいろいろな国際会議が持たれ、活発な人事交流が行われました。1 月、塩川財務大臣、8 月、坂口厚生労働大臣、9 月、片山総務大臣の公式訪問が行われました。又、ベトナムからは、4月、カイ首相、6月、ニエン外相、12月、カイ首相、ニエン外相の訪日がありました。日本・アセアン特別首脳会議出席、小泉総理と川口外務大臣と其々会談がもたれました。2002 年度の総額は 924 億円、2003 年は、約 917 億 3800 万円(内無償援助 124 億円)が約束されており、ベトナムのインフラ整備に多大の

貢献をしております。

ベトナム政府は、貿易と投資の環境整備のために、ベトナムに進出している外資系企業との会合を引き続き定期的に行い、逐次改善を進めています。

2003 年度の日越間取引額

輸出	303,346,574 千円	前年度比 13.86%増
輸入	358,048,596 千円	前年度比 13.27%減
合計	661,395,170 千円	前年度比 13.54%増

2003 年の取引は、輸出入総額が前年度に比べて 13.54%増となりました。特に輸出入共に 13%以上の伸びとなった事が注目されます。原油の国際価格の上昇と水産物、衣料関係の輸入が堅調でしたが雑貨、民芸品等は国際競争にさらされ、伸び悩みました。日本側の輸出は、ODA 関連資機材、ベトナム進出企業の操業度の向上で、集積回路、組み立て部品、発電所機材、鋼材、家電の組み立て部品などが増えました。

ベトナム統計年鑑は1999年版から刊行し5年目となりました。関係各位の皆様
に感謝いたします。

2005年2月
日越貿易会
専務理事 宮内 寛